

【学校教育目標】	【本年度の重点目標】
確かな学力と豊かな心を持ち、地域を愛するたくましい生徒の育成	○魅力ある学校づくり(不登校生10名以下)

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学習指導	授業内容の改善	目的・方法・観点のある授業展開ができているか ----- 〈結果〉 昨年度の結果より0.1ポイント減少している。教職員の入れ替えもある為、授業づくりに関する校内研修が必要だと考える。	2.9 「かく・話し合う」表現活動を効果のあるものとするために、授業改善に努めてほしいと思います。	表現活動をより効果なものとするために、本時の中心となる「問い」の設定を工夫していく。
		基礎・基本の定着を図る取り組みを行ったか ----- 〈結果〉 年間を通して学力を維持、向上できていないことから、昨年度の結果より0.1ポイント減少している。	3.3 時間の経過とともに学習した内容を忘れてしまう傾向があると思いますので、計画的な繰り返し学習をお願いします。	「モジュール学習」や「教科コンクール」を教科指導で積極的に活用し、基礎・基本の定着を図る。
学習指導	学習指導	生徒の考えを書く活動場面を設けたか ----- 〈結果〉 「かく活動」を授業に位置付けていることから、ワークシート等の工夫がなされ、昨年度の結果より0.3ポイント上昇している。	3.0 何のために書くのか、目的を明確にして「かく活動」を取り入れてほしいと思います。	「かく活動」の充実に向けて、筑豊教育事務所が発行した「書く活動Point9」を活用した校内研修を実施する。
		自分や他人の意見を交流する場面を設けたか ----- 〈結果〉 「話し合う活動」を十分に組み合わせていない教科がある為、授業づくりに向けた研修が必要だと考える。	2.7 生徒の考えが深まる「話し合い活動」をコーディネートしてほしいと思います。	話し合った内容を整理しやすいように、ワークシートや必要に応じて教具(ホワイトボード、付箋など)の使用を工夫する。
学習指導	家庭学習の習慣化	各教科で課題(特に週末)を与えることができたか。 ----- 〈結果〉 昨年度の結果より0.2ポイント減少している。5教科を中心に課題を与えているが、家庭学習の定着が課題である。	2.8 土曜未来塾の推進により取組が改善されているようなので、今後も継続していただきたいと思います。	土曜未来塾に参加している生徒の学力の状況を分析すると共に、成果の現れた生徒を奨励する。
		家庭学習の定着に積極的な指導を行ったか。 ----- 〈結果〉 宿題等を提出できない生徒に対して、昼休みや放課後に取り組みさせている。家庭学習の時間(90分以上)を達成するための手立てを検討する必要がある。	2.8 家庭学習は、時間も内容も生徒が必要だと感じなければいけないと思います。	家庭学習の必要性を説くと共に、各種通信を利用して、生徒、保護者に家庭学習の習慣化について呼びかける。
	総合所見	本校の課題の一つである「学力向上」の視点から、まずは「基礎・基本的な知識、技能の定着」に向けた取組を進めていかなければいけないと考える。そのためにも「授業改善」と「家庭学習の習慣」は必要不可欠である。新学習指導要領改訂に伴い、「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業づくりに関して研修を重ねると同時に「福岡鍛ほめメソッド」のコンセプトに沿って生徒の学習に対する姿勢を改善していきたい。		

生徒指導	落ち着いた学校づくり	チャイム席など生徒が時間を守る指導を行ったか 〈結果〉 「凡事徹底」を掲げていることから、教職員の働きかけも積極的である。	3.6	「凡事徹底」これは、社会で生きる上でも必要な力だと思いますので、継続した指導をお願いします。	「時間」「挨拶」「掃除」の徹底に関しては、生徒会活動と連携して、取組の充実を図る。
	いじめのない学級や人間関係づくりの取組を行ったか。 〈結果〉 昨年度の結果より0.1ポイント上昇。道徳、特別活動、学校行事等の取組が効果的に働いている。	3.3	どのような人間関係が望ましいのか、全ての教育活動に結びつけて、指導していただきたいと思います。	生活アンケートや教育相談、スクールカウンセラーを活用して、原因を分析し、充実した学校生活を送れるように最善の努力をしていく。	
生徒指導	生活習慣の改善を図る生徒指導	不登校傾向にある生徒への支援をおこなったか 〈結果〉 学級・学年による生徒や保護者への支援により、不登校から復帰、解消した生徒が2名いた。	3.2	不登校の未然防止に向けた取組をお願いします。	体験的な学習を各学期位置づけ、目標を持ち、達成に向けて努力できる生徒、意欲的に他者と交流できる生徒を育てていく。
	総合所見	他機関と連携して不登校解消に取り組めたか 〈結果〉 不登校の解消には至っていないが、SSWの関わりにより、3年生の進路支援を行い、実現することができた。	2.5	不登校になる原因も多種多様だと思いますので、引き続き関係機関との連携をお願いします。	関係機関に必要な情報を提供し、改善策を検討していく。
	総合所見	「魅力ある学校づくり(不登校生10名以下)」という本年度の重点目標に対して、本年度は不登校生が9名であり目標は達成している。しかし、9名もの不登校生を出してしまったことを真摯に受け止め、学校・家庭・関係機関と連携しながら改善に努めなければならない。具体的には、生徒指導の機能を生かした教科指導、学校行事、特別活動等を通じて「居場所づくり」と「絆づくり」を推進していく。			
職員研修	校内研修の充実	学校の課題に応じた全体研修を行うことができたか。 〈結果〉 主題研修、一般研修を計画的に実施し、方向性や課題を共有することができた。	2.9	学校教育目標の具体化に向けた校内研修の実施をお願いいたします。	学力向上、不登校解消に繋がる研修を計画的に実施する。
	総合所見	全教師が年1回の授業研究に取り組めたか。 〈結果〉 全職員による道徳科の校内研究授業の実施により、道徳科の授業スタイルを確立することができた。	3.6	今後も全職員で「授業づくり」に取り組んでいただきたいと思います。	事後研で確認した「授業のポイント」を全職員で確認し、今後の授業づくりに生かしていく。
職員研修	校外研修の参加	センター研等へ積極的に参加することができたか。 〈結果〉 全教職員が県教育センター主催の研修に参加することができた。	3.1	研修に参加して学んだことを他の先生にもぜひ紹介していただきたいと思います。	研修で学んだことを、教科部会や校内研修等で交流していく。
	総合所見	道徳の教科化に向けて、全職員が資料分析、発問の工夫、板書計画といった授業づくりが実施できたことは大きな成果だと考える。本年度の研究の成果と課題を全職員で確認し、次年度も継続して取り組んでいく。			